

## 展示紹介

## チェリャビンスク隕石

クリスマスプレゼント 周南ゆめ物語～かがくスクウェア～

この隕石は2013年2月15日、直径17m（当時の分析）の小惑星が地球の大気圏に突入したときのもの。

現地時間9時15分（日本時間12時15分）、強い光をはなち、白い煙の尾をひきながら落下する火球（ひのたま）がチェリャビンスク州などウラル山脈中南部一帯で観測されました。

隕石の落下の痕跡（こんせき）で見られる煙のようなものは、隕石の表面が大気との摩擦（まさつ）で高温となり蒸発して、それが冷え固まり、細かい粒子となった隕石雲と考えられます。

隕石には、大気に突入するときの高熱で溶かされ焼けた黒く薄い1mm 程の膜が残ります。

よく見ると鉄の粒なども観察できます。この隕石は、普通コンドライトと呼ばれ、隕石の90%を占める一般的な石質隕石です。

